

今年度最後のテストが終わったころ、廊下から「よっしゃー！これで野球に集中できる！」と叫ぶ声が聞こえました。吹奏楽部の音も聞こえ、簿記部やワープロ部も授業とは違う真剣さで机に向かう姿が見られ、微笑ましく思っています。図書館の雑誌コーナーにある「イマ・チャレ」第8号（読売新聞社刊）に、全国の部活動の実態調査結果が載っています。中学生関係者3万人から取ったアンケート結果には、「より勝利を目指す活動に」より「勝敗にこだわらず気軽に楽しめる」のほうが多い、など興味深い結果が掲載されています。 司書

📖 『なるには BOOKS 商業科高校』に Y校がたくさん紹介されています！ 📖

ペリカン社から刊行されている「なるには BOOKS」シリーズは、皆さんも進路を考えるときに一度は手に取ったことがあると思います。

中学生が進学先を考えるときに役に立つ「なるには BOOKS 高校調べ」の「商業科高校」という本のあちこちに Y校が紹介されています。商業科のあの先生が商業高校の魅力を語っていたり、軽音部だった先輩が授業の楽しさやそこから将来につながった夢を語っていたり、吹奏楽部だった先輩が部活も行事も受験も頑張って希望の進路を勝ち取った経験を語っていたり。またボート部の精鋭たちが部活を頑張る姿も本のどこかで見つけられます。

商業科高校ではさまざまな検定にチャレンジできるということや、実社会で役に立つ経験を積めるということなど、商業科ならではの素晴らしさをあらためて知ることができるこの本は、指定校や総合型などでの入試の志望理由書を書くときや、就職試験などで高校生活を振り返る際に、きっと役に立つと思います。



○大岳美帆『なるには BOOKS 高校調べ 商業科高校  
—中学生のキミと学校調べ』ペリカン社（376オ）



📖 春休みには身のまわりをスッキリしよう！ 📖

この本を読めばお金が貯まる！というようなビジネス本などを見ていると、まずは身のまわりをスッキリすることが大切と思われ知らされる内容が多いことに気づきます。

新入生のための入学説明会があった前日の晩に、薄暗い昇降口でスリッパを一足ずつきれいに拭いている先生方がいました。スリッパを使う誰かがスッキリ気持ちよく過ごせるように、誰にも気づかれずとも丁寧な行いをされていた先生方の未来はきっと豊かなはず！

皆さんも、まずは本を読んで、身も心もお腹のなかもスッキリできて豊かになるような数冊をご紹介します。

### ○黒田尚子『お金が貯まる人は、なぜ部屋がきれいなのか』(591 ク)

ずばり、どうすればお金が貯まるのかが具体的に示されており、たしかに〜と読み進めていると、早くもお金が貯まってきたような気分になります。

### ○ベターホーム協会編『かしこい家しごと』(590 カ)

ちょっとしたお料理や掃除のコツや、アイロンのかけ方や靴の脱ぎ方、手紙の書き方など、知っていればより豊かな心が生まれそうな知恵がいっぱいです。

### ○マイク・ヴァイキング『ヒュッグ 365日「シンプルな幸せ」のつくり方』(590 ヴ)

ヒュッグとは、心地よいことをあらわすデンマークの言葉だそうです。ふだんの生活の中の小さなことを大切にしていると、結局は周りも幸せにすると感じました。

### ○ferment books/おのみさ『発酵はおいしい!』(588 フ)

おなかの中からスッキリ!するには発酵食品がいちばんかも!と手に取ったちょっと大きめのこの本には発酵の歴史や世界中の発酵食品まで掲載されており、図鑑のようにも楽しめます。味噌や納豆だけでなく、意外なものが発酵のちからで作られていることがわかり、作ってみたいくなるようなかわいいイラスト入りのレシピもたくさんありました。



## 📖 今月のおすすめ本 📖

### ○大平一枝『注文に時間がかかるカフェ たとえば「あ行」が苦手な君に』(496 オ)

話しことばがなめらかでない吃音(きつおん・どもり)のために、授業中に指されてわかっていていた問題もわからないふりをし、自己紹介をしなければならぬ春には悪夢にうなされ、“ありがとうございます”“いらっしやいませ”がスムーズに言えないために憧れていた接客アルバイトをあきらめた……。そんな学生時代をもっていた自分のような若者のために、31歳の奥村安莉沙さんが立ち上げた「注文に時間がかかるカフェ」について、丹念な取材を行って書かれたノンフィクションです。

「注文に時間がかかるカフェ」では、接客を経験することで新しい世界を見つけてもらいたいと、高校生以上の吃音をもつ学生限定でカフェスタッフを募集し、カフェの運営もさまざまな方の協力によってまかなわれます。

スタッフに応募した方との事前ミーティング時に、接客中に言葉につまってしまったときに相手に先読みして話してほしいタイプか、時間がかかっても待つしてほしいタイプかを奥村さんが尋ねていました。その文章を読んで、誰もが待つしてほしいと思っているわけではないというような、当たり前のことを忘れてしまっていたと恥じ入りました。

子どもが吃音のせいでいじめに合わないよう出来る限りのことをしている切実な母の思いや、カフェに向かう朝にも不安でお腹が痛くなってしまった娘の数時間後の大きな変化に驚いた両親が、その数時間どれだけ気が気ではないときを過ごしていたのかが書かれたページには、胸が締め付けられるような思いでした。

本の終わりに「待つことの先にゆたかな喜びがあること、他者に寄り添うことはひとりひとりの違いを慮ることであると教えてもらった。それを知っているのと知らないのとで、私のあしたは小さく変わる」とあります。本を読み終わったいま、私のあしたも小さく変わるような気がしています。

## 📖 2024年 本屋大賞 ノミネート作品 📖

今年の本屋大賞のノミネート作品を紹介します。ノミネートされた10冊はさまざまなジャンルに富んでいて、どれかしらにきっとお気に入りの世界の本がありそうです。大賞発表予定日の4月10日までに、春休みを利用してお気に入りを見つけてみてください。貸し出し中の場合は予約ができます。

○宮島未奈『成瀬は天下を取りに行く』(913.6 ミ)

滋賀県、琵琶湖の近くに住む高校生、成瀬あかりは、Y校には居なさそうな強烈なキャラクターの持ち主です。もう一人の主人公、島崎みゆきが見つめる成瀬への感情に共感できる高校生は多いように思います。自分の気持ちを言語化してくれるような本にめぐりあえた、と思えるのでは。続編の『成瀬は信じた道っていく』(913.6 ミ)も合わせて読むことをおすすめします。

○凧良ゆう『星を編む』(913.6 ナ)

昨年の本屋大賞を受賞した『汝、星のごとく』のスピノフのような作品です。前作で描かれなかった登場人物の背景がわかって、そうだったんだ、と納得しながら読みました、つまり前作を読んでいないと楽しめないとしますので、まずは『汝、星のごとく』を読んでください。今ならY校図書館ですぐに貸し出し可能です。貸し出し中のときは遠慮なく予約してください。

○小川哲『君が手にするはずだった黄金について』(913.6 オ)

東大出身の作者が描く世界はノンフィクションなのかしらと思いつつもぐいぐい読んでしまいます。ただ、ところどころイラっとしたのは私だけでしょうか。

○津村喜久子『水車小屋のネネ』(913.6 ツ)

きっと書きようによっては壮絶なのかもしれない姉妹の人生が、悪い人がほとんど出てこない、あったかい小説に仕立てられていて、読後感のとても良い作品です。ネネというしゃべる鳥が絶妙な存在感を醸しています。

○川上未映子『黄色い家』(913.6 カ)

こちらの本は悪い人がいっぱい出てきます。不遇な主人公に胸が苦しくなります。理不尽なことの連続に、お金のことをしっかり勉強するべきとあらためて思い、ある意味Y校生にもぜひ読んでもらいたい作品でした。

○塩田武士『存在のすべてを』(913.6 シ)

前回の図書館だよりYぶらりーのおすすめ本で紹介した本で、ノミネート作品のなかでは一番グッときた本でしたが、重厚さゆえに本屋大賞向きかどうかはわからないところなので大賞発表を楽しみにしています。

○夏川草介『スピノザの診療室』(913.6 ナ)

現役のお医者様である作者が、京都の大きくはない規模の病院に勤務する医師を描いた作品です。本来なら大学病院の最先端の医療を担うほどの腕を持っている医師が主人公で、地域医療だけでなく大学病院の医療現場も絡んできて、医療モノが好きな方には大満足の、あったかい作品です。

○知念実希人『放課後ミステリクラブ 1 金魚の泳ぐプール事件』(913.6 チ)

こちらも現役医師が書いた小学生が主人公の、小学生でも楽しめるミステリー小説です。殺人事件ではないので安心してミステリーが楽しめます。気楽な読書タイムを過ごしたいときにどうぞ。

○多崎礼『レーエンデ国物語』(913.6 タ)

素敵な世界観の本格的なファンタジー小説です。小さいときにハリーポッターシリーズや上橋菜穂子の守り人シリーズや獣の奏者シリーズを楽しんだ方はきっとまた楽しい時間を過ごせると思います。

○青山美智子『リカバリー・カバヒコ』(913.6 ア)

いつもあたたかい作品に癒される作者の優しい物語……実はまだ読めておらず、予約が途切れる瞬間を待ち望んでいます。

# Y校アーカイブ vol. 23 「卒業記念帖 昭和7年」

昭和7年の卒業アルバムは、横 27cm、縦 19 cm、厚さ 1.5 cmほどの大きさで、横長の 37 枚の写真が紐で綴られています。表紙をめくと「横濱商業学校 第四拾六回 卒業記念帖 昭和七年三月」と、右から左に横書きで書かれています。Y校が男女共学になったのは昭和 24 年なので、119 名の卒業生は男子生徒ばかりです。



表紙



中表紙



戦前から校舎には青いドームがありました



講堂の美澤先生の像はこのころから？



日露戦争後に授けられた大砲の前には校友会本部メンバー



寄せ書き